

共立女子大学・共立女子短期大学
2025年度入試 2月日程前期
2025年2月5日(水)

国 語

注意事項

1. この問題冊子は18ページあります。

大問	科目	ページ	選択方法	
一	現代文	1～8	必答問題	
二	現代文	9～15	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題、いずれか1問を選択し、解答しなさい。
三	古文	16～18	選択問題	

2. 万一、落丁などがある場合は直ちに申し出ること。
3. 解答用紙は記述式解答用紙とマークシート解答用紙があります。問題文の指示に従って解答すること。
4. 解答用紙には座席番号・氏名を必ず記入すること。
5. 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
6. 選択問題は出願時に登録した問題を解答すること。登録以外の問題を解答した場合は無効となります。
7. マークシート解答用紙の記入に当たっては、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用すること。
8. マークシート解答用紙に記載の「記入上の注意」をよく読んでから解答すること。
9. マークシート解答用紙の解答欄については、例えば、10 と表示のある問に対して㊦と解答する場合は、次の(例)のように、10の解答欄の㊦にマークしなさい。

(例)

解 答 欄	
10	㊦㊧㊨●㊩㊪㊫・・・・・・・・

10. 試験終了後、試験問題は持ち帰ること。

国語

大問	科目	選択方法	
一	現代文	必答問題	
二	現代文	選択問題	選択問題は出願時に登録した問題，いずれか1問を選択し，解答しなさい。
三	古文	選択問題	

(必答問題)

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は

1

12

)

日本の健康をめぐるパニックの特徴は、^(注) リスクの実感が集合的に醸造され、それに呼応する形で起こった即興的な社会変化が年単位で保持されることである。その典型が、新型コロナによる芸能人の死とそれにツイズイした社会変化だ。

2020年春に志村けんさんと岡江久美子さんが相次いで新型コロナで亡くなった。遺骨を手にした家族が悲痛な表情を浮かべる姿や、葬儀会社が遺骨を玄関先に置いて去る姿がセンセーショナルに報道される中、新型コロナで亡くなると遺体に触れるどころか火葬にも立ち会えないという理解が社会に広まった。

遺骨から感染するといった報告がWHOのような国際機関や医学界などから発信されていたわけではない。しかし、「これが新型コロナの恐ろしさです」「最後のお別れができなくなってもいいんですか」といった情緒的な警告が繰り返され、国民は新型コロナをそのような病気として理解した。

この極端な状況にリアルタイムで批判を加えた医療専門家はもちろんいた。しかしその声は社会に広がることはなく、看取りや火葬時の厳格な立ち会い制限を3年にわたり続けた施設が多々あった。未曾有^{みぞう}の事態に直面した人々が過激な対応に走るのはさして珍しいことではない。奇妙なのは、それが年単位で恒久化する点だ。^①これをどのように理解したらいいだろう。

まず準備段階として、集合的なリスクの実感が二つの成分で構成されることに注目したい。一つ目の成分は、疾病に罹患^{りかん}することへの恐怖、二つ目は、他者から糾弾されることの恐怖である。前者を「生物的なリスクの実感」、二つ目を「社会的なリスクの実感」と名付けたい。

【中略】

^② 社会的なリスクの実感に基づいて行動が制限されると、試行錯誤の機会が奪われる。滑り台を怖がる子どもが実際に滑ってみることで、怖くない滑り方を学んでいくように、強烈なリスクの実感が想像力の中で仮に醸成されていても、その実感は、「やってみる」という実践を通じて調整される。しかしリスクの実感に社会的要素が多分に含まれる場合、試行錯誤を通じ「全くやらない

い」と「やりすぎる」の中間を探ることが困難になる。やってみた先の失敗が許容されづらくなるからだ。「何かあったら責任が取れるのか」というように。

新規感染症について「とりあえず罹^{かか}ってみよう」という手段は許容されないため、滑り台と新型コロナウイルスを同列視することはもちろんできない。しかし新型コロナウイルスの罹患者が増え、この疾患についての経験値が蓄積される中、「ノーガード」と「過剰なガード」のどこに立ち位置をとればいいかを世界中がモサク^イし、人々は拘束のない日常を徐々に取り戻していった。

ところが日本は、法で強制されたわけではないにもかかわらず、「過剰なガード」に近い「頑強なガード」から立ち位置を動かすことが3年間ほとんどできなかった。2022年12月にカタールで開催されたサッカーワールドカップにおいて、日本からの応援団も含めた現地の観客がマスクなしで大歓声を送る一方、日本のパブリックビューイングではマスク着用、声出し自粛が求められる。それほどの違いが生じたのだ。

③なぜこのような事態になってしまったのか。その理由の一つは、指揮をとった人々の精神論にあるだろう。気の緩みが感染拡大を招くという意識をリーダーが持ち、その言葉を無批判にメディアが拡散する限り、ガードを下げられるはずはない。少しでも緩めたら「気の緩み」と糾弾される可能性があるからだ。

※とはいえ、これだけでは説明がつかない。個々の国民が自主的に選び取った感染対策の数々は、リーダーの号令を意識してというより、その場その場の状況に応じ、「選んだ」という意識すらなく「選び取られていたはずだからだ。しかしそうであるにもかかわらず、集団としては極めて似た行動が3年余りの間立ち上がり続けた。この奇妙な社会的協奏をどう捉えるべきだろう。

鍵となるのは慣習の力である。慣習とは「特定の社会集団が共有する特徴的な行動様式の全体」を指す。例えば日本人にとっての慣習は、おジギ^ウをするとか、食事の前に手を合わせていただきますと言うとか、家に入る前は靴を脱ぐとかいった、さして考えることもなくやってしまう行動のことだ。

慣習はあまりにも当たり前であるゆえ顧みられることは少ない。しかし私たちの生活は慣習で埋め尽くされており、それがなければ生活自体が成り立たない。対人関係の作法（あいさつや謝罪の仕方、話す時の身のこなし方や言葉遣い）、食事の仕方（正し

い箸の持ち方・使い方)、起きる時間から寝る時間までの一日のリズムの作り方など、慣習の現れる場所は多岐にわたり、子どもは反復学習を通じそれらを身につけ、社会の一員となっていく。

これは、個性や多様性をたたえる社会においても変わらない。通りすがりの人を切りつけたり、スーパーでボール遊びを始めた
りする行為が個性や多様性のハツロとみなされることはないように、それぞれの社会には許容されることとされないことがある。

慣習にはそれぞれの社会の倫理観が埋め込まれており、慣習通りに振る舞うことはその社会において倫理的に振る舞うことにつながるのだ。

④ではこの慣習は何から生成されるのか。それを「ハビトウス」という概念装置を用い解説しようと試みた社会学者がフランスの
ピエール・ブルデュー(1930~2002)である。端的に説明するとハビトウスは、社会化の過程で個々人の身体に埋め込ま
れた、言葉や振る舞い、さらには趣味のような心的傾向を生み出す装置のことを指す。ブルデューの対談相手を務めたフランス文
学者の加藤晴久は「われわれの内部に組み込まれた社会である」とハビトウスを言い換え対談を進めた。

例えば日本では、電車で通話をしないことがマナー(＝慣習)となっている。このため大抵の電話は無視されるが、どうしても
受けないといけない場合、手で口を隠したり、すぐに折り返すと小声で伝えて電話を切ったりする。伝えられた相手はすぐに状況
を察知し、話を手短に済ませる。

無視をする、手で口を隠す、小声になる、話を手短に済ませるといった所作は、考えた末に選り取られた振る舞いではない。

X これらは状況に応じて即興的に選り取られた所作であり、私たちにそれができるのは、電車の中でどのしかるべき振る舞
いを反復の中で学んで身体化しているからである。ただあまりにも自然な所作になっているゆえ、私たちは学びの歴史を普段思い
出すことはない。だからこそブルデューは、「身体化され、自然となり(中略)忘却された歴史」とハビトウスを定義付けた。

またハビトウスを用いると、私たちが慣習を反復するだけの自動人形ではなく、慣習の制約を受けながらもそのうちに自由を持
つ存在であることが明らかになる。例えば先の電車事例において、私たちは周りの乗客の邪魔をしないという慣習の制約を受ける。

Y、かかってきた電話にどう対応するかは、直ちに切る、乗客の少ない車両に移動する、最寄り駅で降車しかけ直すなど、

無数のバリエーションが考えられる。音符の数に制限があっても作られる音楽のバリエーションは無限であるように、私たちの身体に織り込まれたハビトウスは、制限の中でも自由に振る舞う余白を私たちに与えるのである。

本書で扱ってきた感染対策を慣習とハビトウスという観点から捉えようと、次の結論を導くことができる。

⑤ 新型コロナウイルスにおける日本人の感染対策は「頭」で行われていたのではなく、「身体」で行われていた。政府・自治体や医療専門家、さらにはメディアが発した情報は日本人の身体によく響き、集合的なリスクの実感が国民レベルで一瞬にして立ち上がったため、法的な拘束力をほとんど行使せずに、国民レベルの行動変容を素早く起こすことが可能となった。

この行動変容を規定したのは、置かれた場に応じた役割を全うし、場の安定にコウケン^オすることを可能にする日本人のハビトウスである。

このハビトウスは、集合的な対策を素早く生成するという点でコロナ禍初期には力を発揮した。これまでの慣習の応用が効いたのである。しかし座学なしで即興的になされた対応であったため、新型コロナウイルスの経験が積み重なり、この病気を頭で理解する機会が訪れても、身につけた振る舞いを捨てられなかった。頭ではわかっていても、身につけたようにしか身体は動かないからである。

日本人のハビトウスは、感染予防に高い適応性を持っていた。あなたの **Q** 自覚な行動のせいで弱い人が命を落とすかもしれない、つまり「迷惑をかけたら人が死ぬ」という脅しが至る所から降ってくるのである。自分がいかに迷惑をかけない人間であるかを、皆が身をもって証明しなくてはならなかった。監視の目は社会に張り巡らされ、迷惑をかけた人はいや応なく糾弾された。

本書では奇妙な感染対策の数々をいくつも紹介したが、これは電車で話す時にもう片方の手で口をさっと覆ってしまうことと同じ、ハビトウスによって生み出された身体技法の数々と捉えるべきだろう。身につけた振る舞いだからこそ簡単には変えられない。それが変わる時があるとしたら、社会の中の迷惑の基準が移動する時だ。それが日本の場合にはコロナが5類に移行した2023年5月だったのである。

コロナ禍で指導的な役割を果たした人々は、日本人のハビトウスを巧みに刺激し慣習行動の延長としての感染対策を集合的に生成することに成功した。それはある面では社会を救い、ある面では社会を痛めつける結果となったのである。

(磯野真穂『コロナ禍と出会い直す』による)

(注) リスクの実感——ある特定のリスクがそこにあり、それにより自分の存在がなんらかの形で危うくなるかもしれない、故にそれは避けねばならないと感じられるありありとした身体感覚

問一 波線部ア～オのカタカナを漢字で書きなさい。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問二 空欄 、 に入ることばとしてもつとも適切なものを、それぞれ次のア～カから選んで、記号をマークしなさい。

い。同じ記号は使えません。解答番号はX 、Y .

- ア しかし イ つまり ウ ただし エ むしろ オ したがって カ たとえば

問三 空欄 に入る一字の漢字と同じ漢字が含まれる語を使った文を次のア～オから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は .

- ア 原子力発電所の再稼働申請が 許可とされた。
イ 難病に治療効果があるこの薬は、日本では 承認である。
ウ 裁判員は、衆議院議員の選挙権を有する者の中から 作為に選ばれる。
エ スノーボードの初心者が 格好な姿勢で斜面を滑り降りていった。
オ 公益法人は、 営利で、 公益を目的としている法人である。

問四 傍線部①「これ」が指す内容を本文中の語句を用いて句読点も含めて三十五字以内で書きなさい。解答は記述式解答用紙に記入すること。

問五 傍線部②「社会的なリスクの実感に基づいて行動が制限されると、試行錯誤の機会が奪われる」とあるが、それはなぜか。

その説明としてもっとも適切なものを、次の㍿～㍺から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 4。

㍿ 試しに「やってみる」という実践を通して、リスクの実感を調整することができなくなるから。

イ 失敗した場合の社会的な影響を考えて、「やってみる」という実践そのものがやりにくくなるから。

ウ リスクの実感に社会的要素が多分に含まれているため、試行した結果の失敗が許されないから。

エ リスクの実感が調整できず、「全くやらない」か「やりすぎる」かの選択になってしまうから。

問六 傍線部③「なぜこのような事態になってしまったのか」とあるが、この問いに対する説明としてもっとも適切なものを、次の㍿～㍺から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 5。

㍿ 気の緩みが感染拡大を招くという精神論を社会全体が共有していたため、感染対策の緩和に踏み切ることができなかったから。

イ 感染対策は、リーダーの号令に従ってではなく、個々の国民によって自主的にその場の状況に応じて選び取られていたから。

ウ 行動変容がハビトウスに基づくものであったため、新型コロナの経験を積み重ねても身につけた振る舞いを変えられなかったから。

エ 慣習の力によって集合的なリスクの実感が国民レベルで醸成されたため、行動変容を起こすための法的な拘束力が機能しなかったから。

問七 ※の段落の役割について説明した文としてもっとも適切なものを、次の㉠～㉥から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 6。

㉠ 前の段落で述べられている問いに対する説明が不十分であることを、その理由とともに示したうえで、新たな問いを立てている。

㉡ 前の段落で述べられている問いに対する説明が不十分であることを述べたうえで、新たな説明を加えることによって補っている。

㉢ 前の段落で述べられている問いに対する説明が不十分であることを、その理由とともに示したうえで、改めて問い直している。

㉣ 前の段落で述べられている問いに対する説明が不十分であることを述べたうえで、根拠を示しながら別の問いかけを行っている。

問八 傍線部④「ではこの慣習は何から生成されるのか」とあるが、「慣習」と「ハビトウス」の関係を説明した文としてもっとも適切なものを、次の㉠～㉥から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 7。

㉠ 社会化の過程で埋め込まれた「ハビトウス」が、さまざまな状況に応じて「慣習」という行動として現れる。

㉡ 「ハビトウス」は、私たちの内部に組み込まれた社会であり、その社会を形成しているのが「慣習」である。

㉢ 状況に応じて即興的に選択された行動が「慣習」であり、その行動の背景にある倫理観が「ハビトウス」である。

㉣ 「ハビトウス」の学習経験は忘れ去られるが、「慣習」の制限というかたちで身体化され、社会に埋め込まれている。

問九 傍線部⑤「新型コロナにおける日本人の感染対策は『頭』で行われていたのではなく、『身体』で行われていた」とあるが、

これはどういうことか。その説明としてもっとも適切なものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

8。

ア 政府・自治体や医療専門家、メディアが発した情報を鵜呑みにせず、ひとりひとりが慣習に従って即興的に感染対策を行っていたということ。

イ 感染対策は、蓄積されたデータに基づいて行われていたのではなく、迷惑をかけない人であることを証明する手段として行われていたということ。

ウ 医療専門家のアドバイスに従って行動するというよりも、場の安定を最優先するというハビトゥスに基づいて行動していたということ。

エ 科学的な知見に従って感染対策を行っていたのではなく、社会化の過程で個々人に埋め込まれた慣習に従って行動していたということ。

問十 次の①～④の中で、本文の内容と合っているものにはアを、そうでないものにはイを、それぞれマークしなさい。解答番号は

① 9、② 10、③ 11、④ 12。

① リスクの実感「生物学的なリスクの実感」と「社会的なリスクの実感」のいずれかに分類することができる。

② 日常生活の様々な慣習は、反復学習によって身につけられたものだが、それを学習したことは記憶されていない。

③ ハビトゥスは、私たちの生活に慣習の制約を加えるが、制限の中でどう行動するかを自由を奪うものではない。

④ コロナ禍で指揮をとった人々は、感染対策の柱として、日本人のハビトゥスを巧みに刺激することを行っていた。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題) 二 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は 13 29)

近代の人文知^{注1}は〈宗教〉を〈文化〉の歴史的起源に位置するものと考えてきましたが、〈遊び〉はその反対、つまり〈文化〉にとってごく **A** 的な領域にすぎないと考えてきました。今日でも、しばしば〈遊び〉は、労働で消耗した精神を癒し、明日への活力を生み出していくための補完的な行為にすぎないと見なされがちです。これは、レクリエーションとしての遊び、気晴らし、休養としての遊びという考え方です。

また、遊びは社会への適応能力を開発する学習 **B** であると考えられることもあります。これは心理学や教育学でしばしば唱えられてきた考え方で、たとえば子どもの遊びは、大人として生活していくために必要な能力を身につける予習・準備であるとされるのです。子どもたちは、遊びを通じて社会性を身につけます。

しかし、遊びをこのように労働のための手段、ないしは社会化のための学習として考えることは、遊びを労働にとって役に立つ限りで価値あるものとし、成熟した人間になるのに役に立つ遊びを「良い」遊び、そうでない遊びは「悪い」遊びとして排除しがちになります。ところが遊びには、興が乗れば仕事そっちのけで人を夢中にさせる魅力があります。遊びの価値は、決して何らかの目的^①に対する手段として測られるものではありません。

X、遊びはあり余る生命力の過剰を放出することであるとも考えられてきました。動物が飢えや危険から自由なときに遊ぶのと同様、人間も生活に余裕があるとき、余剰のエネルギーを遊びとして消費するのです。この他にも、かつては生命を維持するために必要不可欠だった営みが不要になり、遊びという形で残存してきたという説、あるいは遊びは人間にとって先天的な模範本能の現れだという説など、遊びについて語られた考え方はさまざまです。しかし、これらはどれも、遊びを遊び以外の何らかの目的や原因によって説明しようとしており、遊びがそれ自体として内包^②している構造や拘束力を捉えたものではありませんでした。

〈遊び〉を、こうした因果論とはまったく異なる視点から捉え、この現象の理解を革新したのはヨハン・ホイジンガでした。彼は『ホモ・ルーデンス』で、あらゆる文化の根底には〈遊び〉があること、〈文化〉はそもそも遊ばれるものであったことを、豊富な例を引き合いに示しました。彼によれば〈文化〉とは、遊びのなかで、遊びとして発生し、展開してきたもののなのです。

言語、神話、祭りといった文化の根源的な形態は、すべて遊びの活動を基盤にしています。言語の場合、^⑦どんな抽象的な表現でも、それを支えているのは比喩の働きですが、^⑧いかなる比喩のなかにも言語の遊びが隠れています。また、神話や祭りが創造する世界にも、絶えず遊びの精神が息づいています。

Y

、人間が共同生活を始め、文化を形成するようになったときから、その文化にはすべて遊びが織り交ぜられていたのです。

ホイジンガは遊びを、何か別の目的や原因により説明されるものではなく、そこから人間文化のすべてを照射できるような「根源的な生の範疇」^⑨として捉えました。彼が問うたのは、他の文化現象の間で遊びがどういう位置を占め、どのような因果関係のなかで機能しているかではありませんでした。文化総体がどこまで遊びの性格をもっているのかということでした。

こうした視点が重要なのは、それがそれまで暗黙の前提とされていた遊びの

C

的な位置を、まったく逆転させてしまった点にあります。ホイジンガは、「遊び」と「まじめ」を対立させようとする考えに反対します。遊びは実際、いかなる活動よりも本気で追求されることがあるのです。私たちは「所詮これは遊びだよ」という言い方をするとき、「遊び」をどうでもいいこと、本当は意味もないことであるかのように使っています。しかしホイジンガによれば、文化は遊びを通してこそ生成するのです。遊びのないところに真に充実した意味を見出すことはできません。遊びこそすべての意味ある世界の母胎なのです。ホイジンガの「ホモ・ルーデンス」、すなわち「遊ぶ人」は、「遊び人」という蔑称とは正反対に、私たち人間すべての原型を示しているのです。^⑩〈遊び〉を文化の生成的基層として語り直すホイジンガの観点は、優れた近代批判でした。彼は、近代以前の社会の〈遊び〉で経験されていた超越性や次元が、近代以降の社会でどれほど失われてしまったのかを示しました。このような近代批判は、ミハイル・バフチンのカーニバル論にも通じるものです。^{注3}

ミハイル・バフチンにおいてカーニバルとは、中世・ルネッサンス期の豊かで多様な民衆的・祝祭的生活総体を象徴的に指し示

す言葉でした。中世には、民衆の祝祭的想像力の核をなした愚者の祭りやロバの祭り、復活祭やクリスマスの笑い、シャリヴァリ、定期市、国や教会の祝日の非公式的な部分である民衆的娯楽の全形式はすべて「カーニバル的」現象だったのです。

この時代、民衆のカーニバル的生活は、彼らの日常の公式的生活とは著しいDをなしていました。バフチンは、中世の人々は二つの生活、公式的生活とカーニバル的生活に等しく関与し、二つの世界像、すなわち敬虔^{けいけん}で厳粛な見地と笑いの見地に等しく関与していたと論じました。公式的生活がまさにホイジンガが「高貴な理念が、多くの人々の美しい身ぶりのうちにイメージ化」されていると考えた騎士道の理想と結びつき、聖なるものにつながれていたとするならば、カーニバルは、そうした公式の祝祭の対極で、階層秩序や特権、規範、美的価値の廃棄を祝っていました。

バフチンの関心は、そうしたカーニバルの広場での非公式のコミュニケーションへと向かいます。カーニバルの言語に特徴的なのは、あべこべと裏返し、上下や左右、表と裏の絶えざる変転、あるいはパロディ、もじり、冒瀆^{ぼうとく}、道化的な罵言^{ばげん}でした。これらのさまざまな境界侵犯^{きょうがいひん}をバフチンは「グロテスク・リアリズム」と総称しました。

バフチンは、近代社会におけるカーニバル文化の貧困化を徹底的に批判したのです。近代社会は、ルネッサンスまでの民衆のカーニバルの世界を抑圧し、分解し、不能化してしまいました。彼は、とりわけ17世紀後半から目立ってくる祝祭文化の貧困化が、大きく二つの方向で進行したといえます。すなわち、一方では祝祭に国家的性格が付与され、民衆のグロテスク・リアリズムとは無縁の盛装や儀礼が支配的となりました。他方では、誕生日やクリスマスのパーティのように祝祭は私的な、家庭的な領域へと押し込まれてしまうのです。二重の変化のなかで、かつてのカーニバル特有の民衆性、開放性、笑い、自由といった特性は、単なる祭^{まつり}目的気分に変化していきました。

遊びの理解にとって重要なのは、遊びがそれ自体として内包している構造や拘束力です。人が遊ぶのは、それが何かの役に立つからではなく、それ自体として遊びが魅力的で、その生き生きとした経験が人を引きつけるからです。

（吉見俊哉『現代文化論——新しい人文知とは何か』による）

注1 人文知——人間が生み出してきた言語・宗教・歴史・文化などを研究し、哲学・心理学など人間そのものを探究する知性。

注2 ヨハン・ホイジンガ——Johan Huizinga（一八七二～一九四五）オランダの歴史家・文化史学者。一九三八年、『ホモ・ルーデンス』を刊行。

注3 ミハイル・バフチン——Mikhail M Bakhtin（一八九五～一九七五）ロシアの文芸学者。『フランソワ・ラブレ』の作品と中世・ルネッサンスの民衆文化』（一九六五）でカーニバル論を展開した。

注4 愚者の祭り——中世・ルネッサンス期に、少年や下級僧の間から〈阿呆の司教〉が選ばれ、通常の秩序や価値観を逆転させて催された祭典。

注5 シャリヴァリ——ヨーロッパの民衆的慣行の一つ。共同体の規範を逸脱した者に対してなされる儀礼的な制裁。若者組の成員が鍋などをたたいて音を出して騒ぎ、不自然な再婚をした者や不倫した者をはやし立てた。

問一 空欄 A、B に入ることばとしてもっとも適切なものを、それぞれ次のア～カから選んで、記号をマークしなさい。

い。解答番号は A 13、B 14。

- ア 辺境 イ 境界 ウ 周縁 エ 能力 オ 過程 カ 経過

問二 傍線部①「何らかの目的」とあるが、「遊び」の「目的」とされる具体例として適切でないものを、次のア～オから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 15。

- ア 労働で消耗した精神の癒し。
イ 活力を生み出す補完的な行為。
ウ 大人としての生活を送るための能力を身につけるため。
エ 社会に出てからの労働のための活力源。
オ 子どもたちの社会化のための学習。

問三 空欄 、 に入ることばとしてもっとも適切なものを、それぞれ次の㍅㍆から選んで、記号をマークしなさい。

い。解答番号はX 、Y 。

- ㍅ ① しかし ② つまり ③ ゆえに ④ さらに ⑤ そこで ⑥ あえて

問四 傍線部②「遊びがそれ自体として内包している構造や拘束力」が持っている特徴の説明として、もっとも適切なものを次の

㍅㍆から二つ選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ㍅ ① 子どもたちに、大人になるための社会性を身につけさせる。
② 仕事を忘れさせるくらい、人を夢中にさせる魅力をもつ。
③ 生活に余裕があるときに余剰のエネルギーを消費する。
④ あらゆる文化の根源的形態の基盤になっている。
⑤ 他のいかなる活動よりも本気で追求される性質がある。

問五 空欄 、 に入ることばとしてもっとも適切なものを、それぞれ次の㍅㍆から選んで、記号をマークしなさい。

い。解答番号はC 、D 。

- ㍅ ① 帰属 ② 従属 ③ 隷属 ④ 対応 ⑤ 対象 ⑥ 対照

問六 波線部㍅㍆のうち、他と品詞の異なるものを選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ㍅ ① あらゆる文化の根底 ② どんな抽象的な表現 ③ いかなる仕事
④ その文化 ⑤ 単なる祭日的気分

問七 二重傍線部「境界侵犯」と同じ構成を持つ四字熟語を次の㍅～㍑の中から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

22。

- ㍅ 起承転結 ㍑ 責任転嫁 ㍗ 異口同音 ㍙ 本末転倒 ㍚ 厚顔無恥

問八 傍線部③「文化の生成的基層」とあるが、著者が「文化」について説明した文章を次に掲げる。空欄 E、F に

入ることばとしてもっとも適切なものを、それぞれ次の㍅～㍑から選んで、記号をマークしなさい。解答番号は E 23、

F 24。

〔文化〕は近代において確立した概念であり、自然の「耕作」の意から E した人間の「修養」の意を含み、さらに
〔文明〕との対抗から国民や民族、階級や民衆、非西欧社会それぞれに固有の価値や生活様式といった意味合いを帯びてきま
した。重要なのは、この概念が、近代西欧の啓蒙的価値を F しつつ、これに対抗する両義的なダイナミズムを含んで
いる点です。

- ㍅ 変化 ㍑ 転化 ㍗ 転生 ㍙ 変容 ㍚ 受容 ㍛ 寛容

問九 傍線部④にある「カーニバルの言語」の特徴は、どんな対象を笑いのめすものであるのか。次の㍅～㍑から二つ選んで、記
号をマークしなさい。解答番号は 25。

- ㍅ 公式 ㍑ 階層 ㍗ 特権 ㍙ 規範 ㍚ 価値
㍛ 近代 ㍜ 国家 ㍝ 家庭

問十 次の①～④で、本文の内容と合っているものにはアを、そうでないものにはイを、それぞれマークしなさい。解答番号は

① 、、、。

① 遊びは、遊び以外の何らかの目的や原因によって説明されるべきものではない。

② 言語、神話、祭りといった文化すべてには、遊びの精神が宿っている。

③ ホイジンは、文化の基盤は遊びであると主張することで人間すべての原型を示した。

④ バフチンは、民衆性や開放性といった重要な特性をもつカーニバルを貧困化させた近代を批判した。

大問二・大問三は、出願時に登録した問題、いずれか一問を選択し、解答しなさい。

(選択問題)

三

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。(解答番号は

13

〜

33

)

近頃、和歌の道、^① ことにもてなされしかば、内裏^{だいり}、仙洞^注、摂政家、いづれもとりどりに、そこをきはめさせ給へ^② **り**。臣下あまた聞こえし中に、治部卿^{ちぶきやう}定家、宮内卿^{くくないきやう}家隆とて、家の風絶ゆる事なく、その道に名を得たりし人々なりしかば、この二人にはいづれも及ばざりけるに、ある時、摂政殿、宮内卿^(a)を召して、「当時正しき^B **歌よみ**多く聞こゆる中に、いづれかすぐれ侍る^(b)。心に思はんやう、ありのままに」と御尋ねありければ、「いづれともわきがたく候ふ^(c)」とばかり申し、思ふやうありげなるを、「いかにいかに」^④とあながちに問はせ給ひければ、ふところより畳紙^{たたうがみ}を落として、やがて出でにけり。御覧ぜられければ、

明けば又秋のなかばも過ぎぬべしかたぶく月の^C **惜しき**のみかは

と書きたり。この歌は治部卿の歌なり。かかる御尋ねあるべしとはいかでか知るべき。^I ただ、もとよりおもしろくおぼえて、書き付けて、持たれけるなめり。^{II}

その後、又、治部卿を召して、さきのやうに尋ねらるるに、これも申しやりたるかたなくて、

かささぎのわたすやいづこ夕霜^{ゆふしも}の雲井に白き峰のかけはし

と、^D **たかやかに** ^{III} **ながめて出でぬ**。これは宮内卿の歌なりけり。まめやか^Eの上手の心は、されば一つなりけるに **や**。

(『今物語』による)

注 仙洞……院御所。

問一 傍線部①～⑤の意味としてもっとも適切なものを、それぞれ次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

① 13、② 14、③ 15、④ 16、⑤ 17。

- | | | | |
|----------|-------|--------|---------|
| ① ア 常に | イ 特に | ウ 真剣に | エ 丁重に |
| ② ア 多く | イ 少なく | ウ 全く | エ こっそりと |
| ③ ア 家名を | イ 権力を | ウ 肩書きを | エ 評判を |
| ④ ア 早口で | イ 優しく | ウ 強いて | エ 冷静に |
| ⑤ ア 記憶して | イ 感じて | ウ 語って | エ 考えて |

問二 波線部Ⅰ～Ⅲの解釈としてもっとも適切なものを、それぞれ次のア～ウから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は

Ⅰ 18、Ⅱ 19、Ⅲ 20。

- | | | |
|--------------------|-------------------|------------------|
| Ⅰ ア どうにかして知るべきである。 | イ どうして知ることができようか。 | ウ どうして知らないのだろうか。 |
| Ⅱ ア お持ちになったのであろう。 | イ 持っておられたに違いない。 | ウ 持つことができたそうだ。 |
| Ⅲ ア 外を見渡し退出した。 | イ ぼんやりして退出しなかった。 | ウ 詠唱して退出した。 |

問三 四角で囲ったA～Eの品詞を、それぞれ次のア～クから選んで、記号をマークしなさい。解答番号はA 21、B 22、

C 23、D 24、E 25。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|------|
| ア 名詞 | イ 動詞 | ウ 形容詞 | エ 形容動詞 | オ 副詞 |
| カ 連体詞 | キ 助動詞 | ク 助詞 | | |

問四 波線部(a)～(d)の敬語の種類として適切なものを、それぞれ次のア～ウから選んで、記号をマークしなさい（重複解答可）。

解答番号は(a) 、(b) 、(c) 、(d) 。

- ア 尊敬語 イ 謙譲語 ウ 丁寧語

問五 二重傍線部「やがて出でにけり」の動作の主体は誰か。次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 語り手 イ 摂政殿 ウ 治部卿定家 エ 宮内卿家隆

問六 太線部「秋のなかば」とは、旧暦でいつ頃のことか。次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 七月十五日頃 イ 八月十五日頃 ウ 九月十五日頃 エ 十月十五日頃

問七 本文の内容に合致するものを、次のア～エから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 近年、定家や家隆に匹敵する歌人たちが、内裏や摂政家から輩出されていた。
イ 摂政殿は、定家と家隆を呼び出して、和歌を上手に詠む秘訣^{けつ}を尋ねた。
ウ 和歌には流行や好みがあるから、一番良い歌を選ぶのは難しい。
エ 定家と家隆が、歌人として互いを認め合っていた様が素晴らしい。

問八 本文中の「定家」や「家隆」が撰者^{せん}となった勅撰集名を、次のア～オから選んで、記号をマークしなさい。解答番号は 。

- ア 万葉集 イ 古今和歌集 ウ 後撰和歌集 エ 金葉和歌集 オ 新古今和歌集